

## 平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月10日

上場取引所 JQ

上場会社名 ケンコーマヨネーズ株式会社

コード番号 2915 URL <http://www.kenkomayo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 炭井 孝志

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役

(氏名) 奥田 洋

TEL 03-5962-7777

四半期報告書提出予定日 平成22年2月12日

配当支払開始予定日

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	39,438	3.7	2,414	277.7	2,330	288.4	1,146	235.0
21年3月期第3四半期	40,938		639		600		342	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	89.02	
21年3月期第3四半期	26.57	

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	32,512	10,601	32.6	821.96
21年3月期	29,538	9,593	32.4	742.20

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 10,588百万円 21年3月期 9,561百万円

## 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期		0.00		11.00	11.00
22年3月期		0.00			
22年3月期 (予想)				11.00	11.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	51,200	3.7	2,300	135.4	2,200	138.9	870	189.1	67.53

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無  
新規 社 (社名 ) 除外 社 (社名 )

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、5ページ[定性的情報・財務諸表等] 4.その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

会計基準等の改正に伴う変更 無

以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 12,911,000株 21年3月期 12,911,000株

期末自己株式数 22年3月期第3四半期 28,414株 21年3月期 28,414株

期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第3四半期 12,882,586株 21年3月期第3四半期 12,883,345株

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

業績予想の前提となる条件等については、4ページ[定性的情報・財務諸表等]「3.連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## 定性的情報・財務諸表等

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日）におけるわが国の経済は、生産や輸出の増加が見られ、一部回復の兆しが現れていますが、雇用情勢の悪化や個人消費低迷が継続し先行き不透明な状況が続いております。

食品業界におきましても、消費者の生活防衛意識が高まり、節約志向・低価格志向へのシフトが強く、肉食回帰の流れが継続する中で、依然として需要の顕著な回復は見られません。

このような事業環境の中、当社グループは平成22年3月期を初年度とする新中期経営計画『KENKO Victory ROAD 2009』の策定を行い、経営指針として「時代の変化に対応できる筋肉質の体制作り」を定め、次の三つのテーマを掲げ、当社グループの収益基盤を安定強固なものとするべく推し進めており、成果が徐々に反映されております。

- ① メーカーの原点である商品開発と生産性向上への徹底的なこだわり
- ② 経営の見える化と経営判断のスピードアップ
- ③ 売上高経常利益率 3%以上の確保

また、今年度の具体的な施策は次のとおりです。

1. 重点分野ごとのきめ細かな販売戦略の展開
2. 新ブランド投入による数量の拡大
3. 新機軸商品（ケンコーディライトシリーズ、ポテト関連シリーズ商品）の拡販と新規市場・新分野の開拓
4. 生産体制の最適化による固定費の圧縮
5. 原材料原価の低減
6. 最適物流体制の更なる追求
7. 販売費及び一般管理費の一層の削減

当第3四半期連結累計期間における売上高は39,438百万円（前年同四半期比1,500百万円の減少、3.7%減）となりました。これは、原料価格の下落に伴う販売価格の改定（値下げ）と、景気の後退を背景にした消費の低迷による売上数量減少による影響です。

製品別の販売状況であります。調理加工食品につきましては、販売数量は微減となったものの、サラダ戦略としてのサラダ領域及び使用シーンの拡大策で、新商品や容量の品揃えを充実したことにより魚介類等の商品ツナサラダ、麺サラダが引き続き大手製パン及びファーストフードに採用され、大幅に伸ばいたしました。また、マヨネーズ・ドレッシング類については、販売数量面ではマヨネーズ類が伸び悩みましたが、ドレッシング類は大幅に増加しました。とりわけ拡大に注力してまいりました新機軸のケンコーディライトシリーズが確実に市場に定着し、またサラダと一体化した特色のある柑橘系、チーズ系、野菜をたっぷり使用したドレッシングが外食向けに堅調に推移しました。また、健康ニーズに対応した低カロリー ノンオイルドレッシングシリーズや分野別戦略商品のクッキングソースやオカズサラダドレッシングも着実に実績をあげております。タマゴ加工品につきましては、お弁当メニュー向けの厚焼きタマゴや、しっとり感を重視した麺用錦糸タマゴ等がコンビニエンスストアや外食分野に採用されましたが、パン用のミックスエッグ及びフレッシュエッグ等が減少となりました。

当第3四半期連結累計期間における利益面につきましては、営業利益は2,414百万円（前年同四半期比1,775百万円の増加、277.7%増）、経常利益は2,330百万円（前年同四半期比1,730百万円の増加、288.4%増）、四半期純利益は1,146百万円（前年同四半期比804百万円の増加、235.0%増）となりました。これは、売上高が微減となったものの、前述の販売対策、製造コスト低減や経費の削減等に努めた結果、増益に寄与することが出来ました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

### (総資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は32,512百万円（前連結会計年度比2,974百万円の増加、10.1%増）となりました。これは主に期末日が金融機関の休日だったことにより現金及び預金が923百万円、受取手形及び売掛金が1,995百万円増加したことなどによるものであります。

### (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は21,910百万円（前連結会計年度比1,965百万円の増加、9.9%増）となりました。これは主に期末日が金融機関の休日だったことにより支払手形及び買掛金が1,142百万円、未払法人税等が481百万円増加したことなどによるものであります。

### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は10,601百万円（前連結会計年度比1,008百万円の増加、10.5%増）となりました。これは主に利益剰余金が1,005百万円増加したことなどによるものであります。

### (キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前年同四半期に比べ1,893百万円増加し、5,954百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

#### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、2,510百万円の資金増加（前年同四半期比624百万円増）となりました。これは主に、販売対策、製造コスト低減や経費の削減等により、経常利益2,330百万円を確保できたこと等によるものであります。

#### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、812百万円の資金減少（前年同四半期比668百万円減）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出800百万円等によるものであります。

#### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、773百万円の資金減少（前年同四半期比477百万円増）となりました。これは主に、借入金の返済による支出であります。

## 3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成22年3月期の通期の業績予想につきましては、現時点では平成21年11月10日に別途開示しております「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表した業績予想を変更しておりません。

## 4. その他

## (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

## (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

## ① たな卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末たな卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ、正味売却価額を見積もり、簿価切下げを行う方法によっております。

## ② 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

当社の法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、または、一時差異等の発生状況に著しい変化が認められた場合には、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングに当該著しい変化の影響を加味したものを利用する方法によっております。

## ③ 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

## 税金費用の計算

連結子会社における税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じる方法等により計算しております。なお、当該法人税等調整額は、「法人税、住民税及び事業税」に含めて表示してしております。

## (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5.【四半期連結財務諸表】  
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,954	5,030
受取手形及び売掛金	<sup>2</sup> 10,291	8,295
商品及び製品	1,108	1,316
仕掛品	11	5
原材料及び貯蔵品	787	800
繰延税金資産	359	289
その他	339	166
貸倒引当金	19	15
流動資産合計	18,832	15,889
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,516	4,753
土地	3,901	3,901
その他(純額)	2,712	2,536
有形固定資産合計	<sup>1</sup> 11,130	<sup>1</sup> 11,191
無形固定資産		
無形固定資産合計	409	466
投資その他の資産		
繰延税金資産	301	278
その他	1,888	1,769
貸倒引当金	51	57
投資その他の資産合計	2,139	1,990
固定資産合計	13,679	13,648
資産合計	32,512	29,538

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	<sup>2</sup> 7,776	6,634
短期借入金	1,575	430
1年内返済予定の長期借入金	1,939	2,645
未払法人税等	880	398
その他の引当金	533	418
その他	3,647	2,744
流動負債合計	16,352	13,270
固定負債		
長期借入金	3,191	4,263
退職給付引当金	377	350
その他の引当金	120	121
その他	1,868	1,938
固定負債合計	5,558	6,673
負債合計	21,910	19,944
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,829	1,829
資本剰余金	2,097	2,097
利益剰余金	6,604	5,599
自己株式	16	16
株主資本合計	10,515	9,510
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	90	67
繰延ヘッジ損益	8	7
為替換算調整勘定	8	7
評価・換算差額等合計	73	51
少数株主持分	12	31
純資産合計	10,601	9,593
負債純資産合計	32,512	29,538

(2)【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	40,938	39,438
売上原価	31,611	28,399
売上総利益	9,327	11,038
販売費及び一般管理費	8,687	8,624
営業利益	639	2,414
営業外収益		
受取利息	8	5
受取配当金	22	17
その他	43	52
営業外収益合計	73	75
営業外費用		
支払利息	111	123
その他	1	35
営業外費用合計	112	159
経常利益	600	2,330
特別利益		
投資有価証券売却益	110	4
賞与引当金戻入額	48	-
補助金収入	-	27
受取保険金	-	16
その他	6	-
特別利益合計	166	49
特別損失		
固定資産除却損	17	4
投資有価証券評価損	21	14
たな卸資産評価損	18	-
関係会社出資金売却損	8	-
出資金売却損	-	5
減損損失	-	169
事務所移転費用	-	40
その他	11	26
特別損失合計	79	261
税金等調整前四半期純利益	687	2,118
法人税、住民税及び事業税	257	1,078
法人税等調整額	92	104
法人税等合計	350	973
少数株主損失( )	5	1
四半期純利益	342	1,146



## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	687	2,118
減価償却費	721	724
減損損失	-	169
引当金の増減額(は減少)	63	138
受取利息及び受取配当金	30	22
支払利息	111	123
売上債権の増減額(は増加)	1,923	1,995
たな卸資産の増減額(は増加)	358	215
仕入債務の増減額(は減少)	2,753	1,142
未払金の増減額(は減少)	270	318
その他	358	309
小計	2,527	3,242
利息及び配当金の受取額	30	22
利息の支払額	109	121
法人税等の支払額	563	633
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,885	2,510
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	616	800
有形固定資産の売却による収入	223	287
補助金収入	250	-
無形固定資産の取得による支出	118	141
差入保証金の差入による支出	-	101
その他	117	56
投資活動によるキャッシュ・フロー	143	812
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	90	1,145
長期借入れによる収入	-	509
長期借入金の返済による支出	1,019	2,286
配当金の支払額	140	140
その他	0	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,251	773
現金及び現金同等物に係る換算差額	6	0
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	484	923
現金及び現金同等物の期首残高	3,577	5,030
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,061	5,954

## (4) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

該当事項はありません。

## (5) 注記事項

（四半期連結貸借対照表関係）

当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
※1 固定資産の減価償却累計額 有形固定資産の減価償却累計額 13,014百万円	※1 固定資産の減価償却累計額 有形固定資産の減価償却累計額 12,483百万円
※2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。従って、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、四半期連結会計期間末日満期手形が以下の科目に含まれております。 受取手形 215百万円 支払手形 155百万円	—

（四半期連結損益計算書関係）

第3四半期連結累計期間

当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	
※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	
給料手当	1,834百万円
退職給付費用	36百万円
その他の引当金繰入額	214百万円
物流費	3,760百万円

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係）

当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)	
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 現金及び現金同等物の四半期末残高5,954百万円は四半期連結貸借対照表の流動資産「現金及び預金」の四半期末残高と一致しております。	

## (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

該当事項はありません。